

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

川崎北部の急性期医療を担う

⑨8 川崎市立多摩病院 (神奈川県川崎市)



建物は免震構造で、災害拠点病院になっている

J R・小田急線登戸駅から、タイルアートと四季の草花に囲まれた遊歩道を歩くこと3分、至便な場所に川崎市立多摩病院は建つ。「自然のぬくもり、人のやさしさを感じさせるヒューマンスケールな施設」というコンセプトの下設計され、公立病院に見えないモダンな外観は従来の無機質な医療施設のイメージを一新した。エントランスホールの壁面も木の葉をモチーフにしたガラスレリーフで装飾された温かみのあるデザインとなっている。

同病院は川崎市北部地域の医療提供体制を充実させるため建設された。市内3番目の市立病院

だが、公立病院改革の一環として、同市は公設民営の一つである指定管理者制度を導入し、公募によって聖マリアンナ医科大学が指名を受けた。

川崎市立多摩病院は2006年、29診療科、376床の病院として開院。救急医療、小児救急医療、災害時医療を主軸とした急性期医療を担っている。聖マリアンナ医科大学病院まで5kmという至近距離の利点を生かし、重症緊急症例や緊急手術などが重複しマンパワーを必要とする状況には、同病院のバックアップを受けている。

中核となる救急災害医療センターでは、24時間・



白と木目を基調としたエントランスホール



患者との対話、地域医療連携の充実を目指す医療相談センター



患者に癒やしの空間を提供しているさわやかガーデン



医療保育士が常駐する小児病棟のプレイルームとちびっこガーデン(奥)



たらい回しの救急車は多摩病院で止めるというのが病院のモットー



災害時や救急医療に対応できるヘリポート

365日体制で全科対応型の救急医療にあたる。集中治療室(ICU、CCU) 10床、HCU12床を備えている。医療相談センターも特徴の一つだ。医師や看護師、ソーシャルワーカーらが協働し、各種医療福祉制度の活用、退院後の療養相談、受診や入院に対する疑問や意見などの相談に対応している。11年に地域医療支援病院に認定されてからは、紹介・逆紹介の促進、高額医療機器や開放病床の共同利用を行うなど地域医療連携を進めている。

患者が分かりやすいよう各病棟は花の名称でネ

ーミングされ、カラーコンセプトも統一されている。29床ある小児病棟には保育士が配置され、看護師と共に小児患者の発育に合わせた看護を行っている。外来では患者の負担を軽減し、受診をスムーズにするため、電子カルテや30分刻みの時間帯予約制を採用。受付や待合のディスプレイ表示により待合→診察室→検査→会計が一方通行の外来ワンウェイシステムを導入している。

開院から8年、市民目線を失わず「市民のための病院」であり続けるため、職員たちはたゆまぬ努力を続けている。